

いじめの未然防止に関する取組推進に向けての指導資料について

人権同和教育課

○ はじめに

近年、全国では、いじめによる自殺などの報道が後を絶たず、児童生徒が健やかに成長していくために、いじめの未然防止に関する取組を充実していくことが求められています。

各学校においては、これまでもいじめや不登校、暴力行為といった諸課題に対し、きめ細かな指導を行っています。「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によりますと、いじめの認知件数は1万件を越え、児童生徒1,000人当たりにおいても、全国平均を大きく上回っています。この要因は、文部科学省が「けんか」や「ふざけ合い」もいじめとして捉えるように方針を改め、学校が、いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知したためと分析しており、いじめを見逃すことなく、早期解消に向けた取組に努めてきたことにあると捉えています。

しかし、小学校におけるいじめの認知件数が多く、さらに、いじめの認知件数が年々増加していることは大きな課題であり、更なるいじめの未然防止に関する取組が求められています。

本県では、「いじめの未然防止推進事業」として推進校を指定し、生徒が主体となった取組を紹介したり、思いやりの心の醸成を図るピア・サポートの推進にも取り組んだりしています。

「宮崎県いじめ防止基本方針」においては、児童生徒の尊厳を保持する目的として、「いじめの防止」、「いじめの早期発見及びいじめの対処」のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定され、その中でも、いじめの未然防止のための施策を下記の通り示しています。

下記の施策が確実に推進され、いじめの未然防止への取組が充実することを期待し、3つの指導資料を作成しました。

○ いじめの未然防止のための施策（宮崎県いじめ防止基本方針 第2-1(4)ア いじめの未然防止のための施策）

- (ア) いじめは深刻な人権侵害であるという観点から、全ての教育活動の中で、人権教育の充実を図る。
- (イ) 児童生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養うことが、いじめの防止等に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育の充実を図る。なお、道徳科において児童生徒がいじめの問題を自分のこととして捉え、考え、議論することにより、いじめに正面から向き合うことができるよう、具体的な実践事例の提供や、道徳教育に関する教職員の指導力向上のための施策を推進する。
- (ウ) 児童生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、必要な望ましい人間関係を築くために、学級活動、児童会・生徒会活動等の特別活動において、児童生徒が自らいじめの問題について考え、議論する活動や、あいさつ運動、ボランティア活動などに対する支援を行う。なお、加えて、児童生徒の豊かな情操や他人とのコミュニケーション能力、感情をコントロールする力、読解力、思考力、判断力、表現力等を育むため、読書活動や対話・創作・表現活動等を取り入れた教育活動を推進する。また、生命や自然を大切にする心や他人を思いやる優しさ、社会性、規範意識などを育てるため、学校における自然体験活動や集団宿泊体験等の様々な体験活動を推進する。
- (エ) 児童生徒同士が思いやり、助け合い、支え合いながら人間関係を育むピア・サポート活動を推進する。
- (オ) 児童生徒に達成感や充実感を味わわせるためのわかる授業や、生徒指導の3つの機能（自己存在感、自己決定の場、共感的人間関係）を取り入れた授業を推進する。
- (カ) 児童生徒及びその保護者並びに各学校の教職員に対するいじめを防止することの重要性に関する理解を深めるための啓発を行う。
- (キ) いじめの未然防止に向けて、幼児期の教育においても、発達段階に応じて幼児が他の幼児と関わる中で相手を尊重する気持ちをもって、行動できるよう、取組を促す。また、就学前のガイダンス等の機会を捉え、幼児や保護者に対するいじめの未然防止に係る取組を促す。

○ 指導資料(案) (中学生対象)

- ① いじめの予防「それぞれの立場で考えてみよう」
- ② いじめの予防「ネットいじめを予防しよう」
- ③ 言語コミュニケーション「話の内容と気持ちをキャッチしよう」

いじめの予防

それぞれの立場で 考えてみよう

◆ ねらい

いじめは被害者と加害者という2つの立場だけでなく、それをはやし立てたりする観衆や、見て見ぬふりをする傍観者といった様々な立場から成り立っていることを理解し、いじめを未然に防止するためにそれぞれの立場から何が必要かを考える。

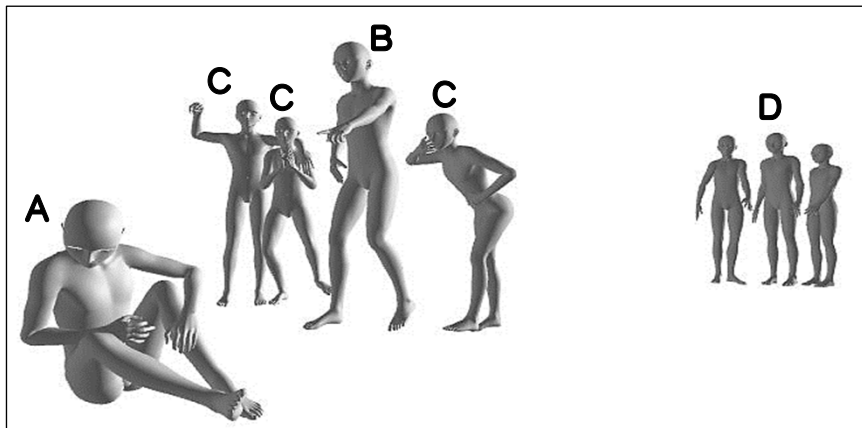
いじめの問題はいじめの被害者と加害者という2つの立場で考えがちです。しかし、実際にはいじめをはやしたてたり、面白がったりして見ている観衆、見て見ないふりをする傍観者といった様々な立場から成り立っており、児童生徒は学校生活の中で様々な立場に立つことが予想されます。そのため、それぞれの立場に立っていじめの問題を考えることで、いじめを防止するために何が必要なのかを考えさせることが重要です。

	生徒の活動	教師のセリフと支援	留意点
導入 (5)	○本時のガイダンスを聞く。	○目的の説明 「今日は、いじめとはどのような立場から成り立っている(構造)のかを理解し、それぞれの立場に立っていじめを考えてみることでいじめの防止のためには何が必要なのかを考えましょう。」	○指示確認をする。 ○本時のねらいを板書する。
主活動 (40)	○「資料1」を見てA・B・C・Dがそれぞれどんな立場なのかを想像する。 ○「いじめの4層構造」とは何か理解する。 【Aの立場から】 ○Aは今どんな気持ちでいるかを考える。 ワークシートに記入する。 グループで話し合う。 グループで出たことを発表する。	○「資料1」を提示する。 「これはいじめの場面を表したのですが、図のA～Dはそれぞれどのような立場でしょうか。」 「いじめは『被害者』『加害者』という2つの立場から成り立っているのではなく実際には『観衆』及び『傍観者』という立場も含め4つの立場(4層構造)から成り立っています。」 「まずはAの立場からどんな気持ちでいるか個人で考えワークシートに記入しましょう。」 「書いたことをもとにグループで話し合ってください。」 「どんな意見が出たか発表してもらいます。」	○一般的な事例を扱うことで、心理的な抵抗を和らげる。 ○A～Dそれぞれの立場の気持ちを考えさせるが、発達の段階に応じて必要な部分を取捨選択する。 ○それぞれの立場に立って考えさせる際には「自分事」として捉えさせるよう留意するが、特に被害・加害経験のある児童生徒の記入・発言に留意する。

	【Bの立場から】 【Cの立場から】 ※ 【Dの立場から】 ○自分が実際にDの立場だったらどうするかを考える。 グループで話し合う。 グループで出たことを発表する。 ○いじめの観衆、傍観者がいじめに果たす影響を理解する。	※【質問】としては9つの例を示しているが、取り扱う学年によってはAがC・Dに対してどのような気持ちでいるか、 BがC・Dに対してどのような気持ちでいるかといった視点からも考えさせることで後のC・Dがいじめにおいて果たす役割の理解を深める。 【C（観衆）の役割】 いじめの積極的な是認 【D（傍観者）の役割】 いじめの暗黙的な支持 「もし、あなたが実際にDの立場だったらどうしますか。またその理由について考えワークシートに記入しましょう。」 「書いたことをもとにグループで話し合ってください。」 「どんな意見が出たか発表してもらいます。」 「今日はいじめに係る4つの立場（4層構造）について、それぞれの立場に立って考えることでそれぞれがいじめにどのような影響を与えるのかを感じ取ってもらえたと思います。」	○いじめの持続や拡大にはDの存在が大きいことから中心的な発問として考えさせる。 ○「止めることができない」といった否定的な意見も子どもたちの率直な意見であることから、このような意見を中心に全体の話し合いを深めることも考えられる。 ○「観衆」がいじめに与える影響～いじめを積極的に是認する役割 「傍観者」～いじめを暗黙的に支持する役割 これらの存在によっていじめは持続、拡大していくことを理解させる。
振り 返 り (5)	まとめと振り返り	○振り返りの指示 「今日の学習で学んだことや分かったこと、感じたことを書いてください。」 ○教師のまとめ 「いじめは加害者・被害者という関係だけではなく、観衆、傍観者という4つの立場から成り立っていることが理解できたと思います。いじめは決して許されない行為であることは誰もが理解	○振り返りの流れ 個人→全体

		できると思います。しかし、真にそれ なくしていくためにはいじめの加害 者にならないことはもちろん、観 衆、傍観者となった時にどのよう に行動できるかが重要であること も分かってもらえたと思います。 今日学んだことを日常の場面で 生かされることを願っています。」	
--	--	---	--

それぞれの立場で考えてみよう。



A:被害者

B:加害者

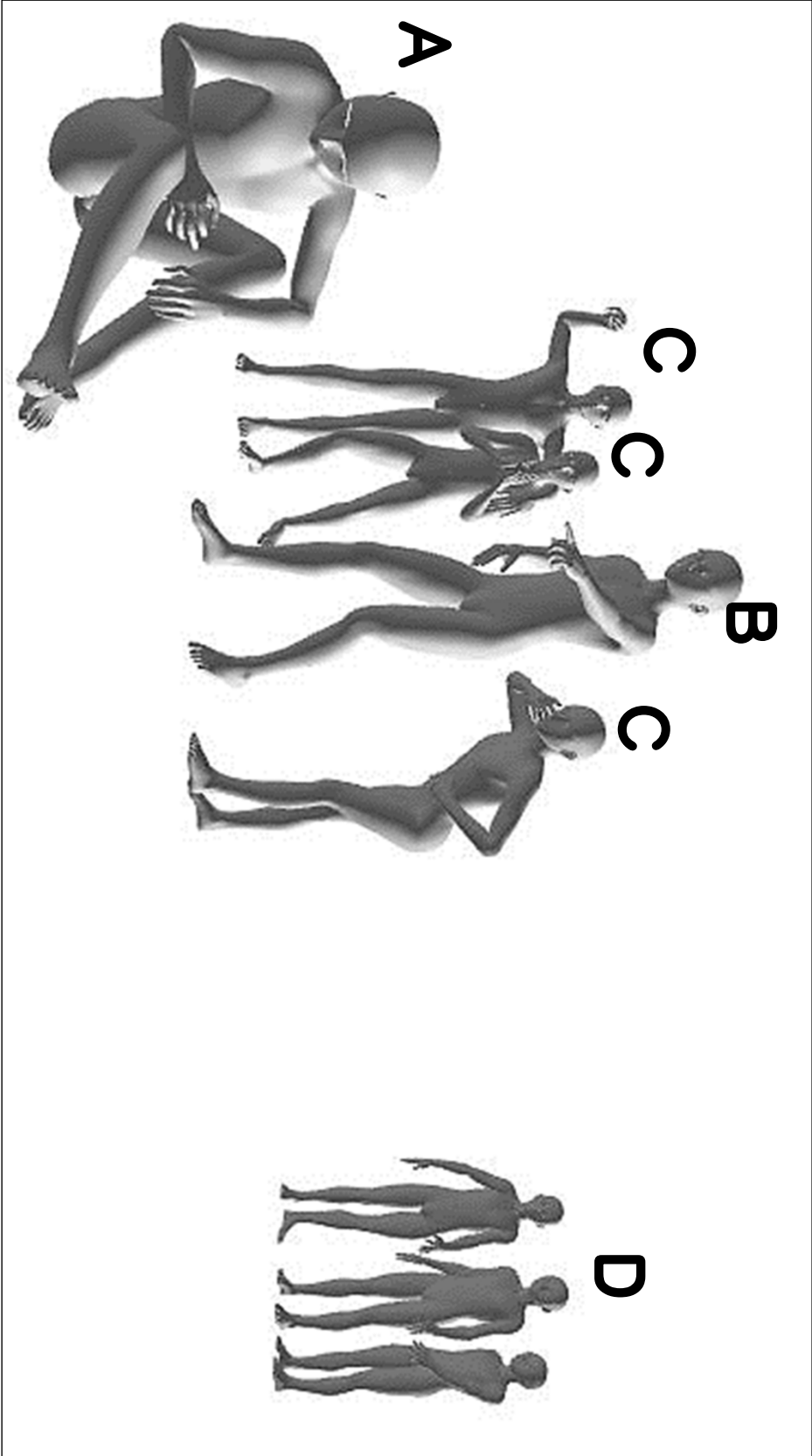
C:観衆

D:傍観者

- A・B・Cは、5人グループで一緒に行動していた。
- Aは、おとなしい性格。Bはリーダー的存在。
- BはAから物を借りたり、荷物を持ってもらったりしていた。
- あるとき、Aから借りた教科書にBがふざけて落書きをしたところ、それを見ていたCらが大笑いした。
- その後、BはAから何度も教科書を借り、Aをからかうような落書きをした。
- Aはやめるように頼んだが、Bはむりやり教科書を借り、落書きしたり、返さなかったりした。
- Aが教科書が無くて困っている様子を見て、Bは悪口を言ったり、教科書を投げつけて返したりし、それを見てCらは笑った。
- 嫌がらせはエスカレートし、BとCらはAを仲間はずれにしたり、陰で笑ったりした。
- Aがからかわれている様子をDらは見ていたが、何もしなかった。
- Aはこの後、学校に来なくなった。

【質 問】

1. Aは今どんな気持ちでいるかを考えてみましょう。
2. Bはどんな気持ちでAに嫌がらせしたのか考えてみましょう。
3. Cはどんな気持ちで笑っていたのか考えてみましょう。
4. Dはどんな気持ちでAを見ていたか考えてみましょう。
5. Dは嫌がらせをしているBをどんな気持ちで見ていたか考えてみましょう。
6. Dは周りで笑っているCをどんな気持ちで見ていたか考えてみましょう。
7. いじめをしているBに対して、Cは普段からどんな気持ちをもっているか考えてみましょう。
8. このときのDは「何もしなかった」ようですが、あなたがDだったらどうしますか。また、それはなぜですか。
9. Aの家族の方はどんな気持ちだと思いますか。



A:被害者

B:加害者

C:観衆

D:傍観者

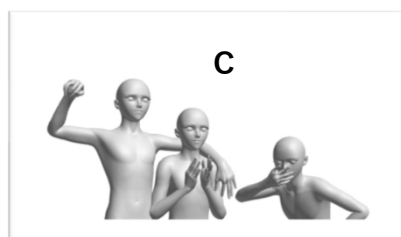
「いじめについて考えてみよう」ワークシート



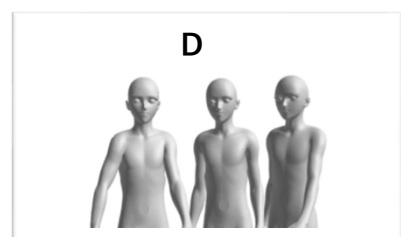
1. Aは今どんな気持ちでいるかを考えてみましょう。



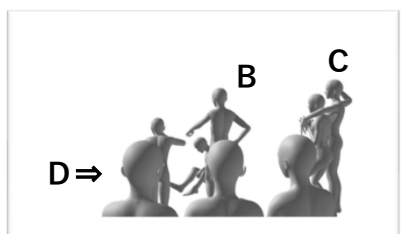
2. Bはどんな気持ちでAに嫌がらせしたのか考えてみましょう。



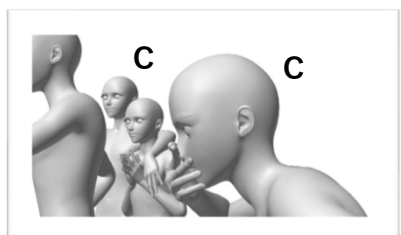
3. Cはどんな気持ちで笑っていたのか考えてみましょう。



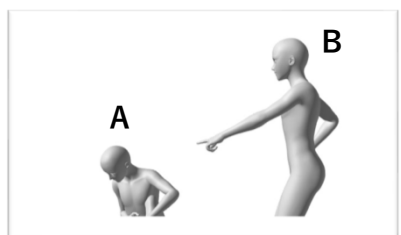
4. Dはどんな気持ちでAを見ていたか考えてみましょう。



5. Dは嫌がらせをしているBをどんな気持ちで見ていたか考えてみましょう。



6. Dは周りで笑っているCをどんな気持ちで見ていたか考えてみましょう。



7. いじめをしているBに対して、Cは普段からどんな気持ちをもっているか考えてみましょう。

8. あなたはこのときの様子についてDから話を聞きました。「何もしなかった」Dに、あなたは何をアドバイスしますか。

9. Aの家族の方はどんな気持ちだと思いますか。

ネットいじめを 予防しよう

◆ ねらい

いじめにはいろいろなものがあり、解決することの難しさがある。ここでは、ネットいじめを話題に挙げ、それを未然に防止するために何ができるか、一緒に考える。

今や社会問題になっているネットいじめ。中学生・高校生の中にも、その被害を訴える生徒が少なくない現状があります。ネットいじめについてみんなで考え、それを防止するために何ができるかを考えます。ネットいじめを取り上げることは、その他のいじめについて考えることにつながります。

	生徒の活動	教師のセリフと支援	留意点
導入 (5)	○本時のガイダンスを聞く。	○目的の説明 「今日は、ネットいじめを防止するために何ができるかを一緒に考えてみましょう。」	○指示確認をする。 ○本時のねらいを板書する。
主活動 (35)	○「事例」の内容を理解する。 ○Aさんの気持ちを考える。 ワークシート1に記入する。 ○大会前と後での、SNSへの書き込みをみて、考える。 ワークシート2、3に記入する。 グループで話し合う。 グループで出たことを発表する。 ○ネットいじめを防止することがなぜ難しいか考える。 ワークシート4に記入する。 各グループで話し合う。 グループで出たことを発表する。	○「事例」の内容を読ませる。 「まず、掲示板に書き込みをされたAさんはどのような気持ちになったでしょうか。」 「SNSのグループ書き込みの中で、一番酷いと感じる発言はどれでしょうか。また、その発言をどう変えればよいでしょうか。」 「書いたことをグループで話し合ってください。」 「どんな意見が出たか発表してもらいます。」 「ネットいじめは、他のいじめとちょっと違った特徴があるかもしれません。ネットいじめを防止することは、なぜ難しいのでしょうか。」 「書いたことをグループで話し合ってください。」 「どんな意見が出たか発表してもらいます。」	○一般的な事例を扱うことで、心理的な抵抗を和らげる。 ○被害者の気持ちを考えさせる。 ○全員に、SNSの仕組みを分かりやすく説明する。 ○発表された意見を板書する。 ○ネットいじめの特徴を明確にする。

	○ネットいじめを防止するために、どのようなことができるか考える。 ワークシート5に記入する。 各グループで話し合う。 グループで出たことを発表する。 日常生活の場面を振り返る。 ○学校生活で同じような場面はないか考える。	「ネット上のいじめを防ぐために、気をつけなければいけないこと、自分のできることを考える。」 「書いたことをグループで話し合ってください。」 「どんな意見が出たか発表してもらいます。」 「学校で同じようなことがあるでしょうか。話せる範囲内で、各グループで話し合ってください。その内容は紙に書いて提出してもらいます。」	○防止策については難しいかもしれないが、できるだけ生徒の考えから引き出す。 ○防止策として他に考えられることを補足する。 ○無理のない範囲で ○いじめの発見に役立て、必要に応じて個別の対応をする。
振 り 返 り (10)	まとめと振り返り ワークシート6に記入する。	○振り返りの指示 「今日のワークで学んだことや分かったこと、感じたことを書いてください。」 ○教師のまとめ 「いじめは、みんなで無くさなければいけません。ネットいじめならではの難しさについても考えてもらいました。しかし、同時に、私たちにできることもあるということが分かったと思います。今日学んだことを日常の場面で生かされることを願っています。」	○振り返りの流れ 個人→班→全体

<事例>

最近、運動の苦手なAさんは元気がありません。学校の球技大会が終わった頃から、SNS上で5人グループによるいじめを受け、それが原因で、いわゆる学校裏サイトと呼ばれる掲示板に、自分を中傷するような内容の書き込みがされていることを知りました。その内容は全く事実と反するものでしたが、その掲示板を見た人は多く、Aさんはこれからどうすべきか困っています。

ネットによるいじめを予防しよう

() 年 () 組 名前 ()

<大会前> グループ (5)

B	来週のクラスマッチ勝てるかなあ？
C	どうだろうね
D	俺らのチーム弱いからね
E	A ってかなり運動音痴よな！
F	あいつ休んだら勝てるかもな

<大会後> グループ (5)

B	いやー勝ちたかったな
C	放課後も練習したのに
D	やっぱり、A がいるチームが・・・
E	A は放課後の練習、来てなかったね
F	ほんとに
B	まじ、うざいな
B	明日から、A を無視しようぜ
C	了解
D	そうやな
E	OK

1 「Aさんの気持ち」を考えてみよう。

--

2 一番ひどいと感じる発言はどれですか。

--

3 Aを悲しませないためには、どの発言をどう変えればいいですか。

--

4 「ネットいじめを防止することが、なぜ難しいか」考えてみよう。

--

5 いじめに向かわせないためには？

<気をつけなければいけないこと>	<自分にできること>

6 今日のワークで学んだこと、分かったことをまとめよう。

--

話の内容と気持ちを キャッチしよう

◆ ねらい

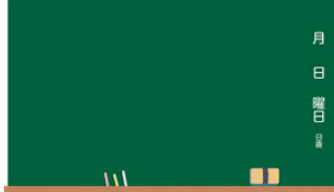
相手の問題に耳を傾け、相手の言っていることや声の調子、言葉の選び方から相手の気持ちを理解することが大切です。また、相手の気持ちとメッセージを聴き取る質問方法から相手の悩みや話を聴く方法を学びます。

相手の話を聴くときには、非言語コミュニケーションと同時に、相手の気持ちとメッセージを聴き取る質問方法も大切になってきます。開かれた質問により相手の気持ちを聴く方法を練習します。

	生徒の活動	教師のセリフと支援	留意点
導入 (5)	本時のガイダンスを聞く。	○目的の説明 「今日は、相手の気持ちとメッセージを聴き取る質問方法を学びます。」	○指示確認をする。 ○本時のねらいを板書する。 ○ルールの確認 ・指示は最後まで聞く ・傾聴態度
主活動 (30)	ワークを行う。 ワークで気がついたこと、感じたことを話し合う。 相手の気持ちとメッセージを聴き取る質問方法を知る。 開かれた質問、閉ざされた質問を考え、記入する。	『反応しながら傾聴し、相談者の内容から気持ちをキャッチする』 (1) 役割を決める (相談者・サポーター・観察者) (2) 相手の伝えているメッセージにこたえる 『あなたは、〇〇〇と感じていますね。それは△△△だからですね』 ○ワークで相手の問題や感情にふれることができたかを確認する。 ○相手の話に耳を傾けるときのポイントを考えさせる。 ・気持ちを聴き取る ・中心のメッセージは何かを聴き取る ○相手の悩みや話を聴くときには、5W1Hの質問（オープン）形式の質問が重要であることを押さえる。 <u>開かれた質問</u> ・担任の先生の好きな点を教えてください。 ・人前で話すときはどんな気持ちですか。 <u>閉ざされた質問</u> ・担任の先生は好きですか。 ・人前で話すのは好きですか。	○役割の確認 ○ワークシートの配付 ○事例1～4 when where who what why how

	開かれた質問を使い、相手の気持ちを聴く練習を行う。	○開かれた質問方法を用い、相手の気持ちを聴くように促す。	○リフレーム（本人はマイナスに感じているものを、ポジティブに捉え直すことを指している）
振り返り (15)	まとめと振り返り	○振り返りの指示 「今日のワークで学んだことやわかったこと、感じたことを書いてください。」	○振り返りの流れ 個人→班→全体

事例

【事例1】 「あの子にいつもテスト前にノートを貸してって言われて、もういやになっちゃう。」 	【事例2】 「教室にいてもつまないんだ。だれも友だちがいないんだ。」 
【事例3】 「今週の土曜日が待ち遠しいんだ。私の誕生日なんだ。」 	【事例4】 「来週はテストがあるんだ。やれることはすべてやってみただけ。」 

質問には、「開かれた質問」と「閉ざされた質問」がある。

閉ざされた質問・・・「はい」「いいえ」、または一単語で答えられる質問
開かれた質問 (when, where, who, what, why, how)・・・話題を広げるために用いられる

話の内容と気持ちをキャッチしよう

（ ）年（ ）組 名前（ ）

1 事例をもとに質問をしてみよう。

【事例1】 「あの子にいつもテスト前にノートを貸してって言われて、もういやになっちゃう」 気持ち _____ メッセージ _____	【事例2】 「教室にいてもつまないんだ。だれも友達がいらないんだ」 気持ち _____ メッセージ _____
【事例3】 「今週の土曜日が待ち遠しいんだ。私の誕生日なんだ」 気持ち _____ メッセージ _____	【事例4】 「来週はテストがあるんだ。やれることはすべてやってみただけ」 気持ち _____ メッセージ _____

2 開かれた質問、閉ざされた質問を考えてみよう。

開かれた質問	閉ざされた質問

3 開かれた質問を使ってみよう。

クラスの子がどうして私を無視するのか分からないわ。仲良くしていこうと私は本当に一生懸命やっているのよ。

4 今日のワークで学んだこと、分かったことをまとめましょう。